

支部活動の活性化について

これまで評議員会や常任理事会あるいは「天気」編集委員会において、「天気」の改善の方策、特に地方在住会員からの投稿の促進について議論をしてみましたが、今回私自身が地方在住会員となり、支部活動に携わることになりました。そこで、これまでの議論を実践するために支部の機関誌に以下のような提言を投稿致しました。

今後の議論の参考になるのではないかと考え、全文を転載することに致しました。

(福岡管区気象台 藤谷 徳之助)

「支部での活動を全国にアピールしよう」

このたび福岡管区気象台技術部に勤務することになり、九州支部の仲間に入れていただくことになりました。

これまで常任理事として機関誌「天気」の編集委員長を4年半にわたって務めてまいりましたが、関東には支部はありませんので、支部活動については全くの素人です。よろしくお願い致します。

常任理事会などの議論で、支部活動についてもっと情報が欲しいという声をよく聞きます。「天気」には「支部だより」という欄がありますが、あまり活発な欄はありません。支部活動の中で最大のものは数年に1度担当する秋季大会ですが、これは全国の会員の知るところであります。夏季大学を実施される支部においては、その案内などが「天気」に掲載されますので、その点については比較的良好に知られています。しかし、日常の活動については全国の会員にあまり知られていないのが実状ではないでしょうか。これは支部活動の報告があまり「天気」に掲載されないことが、その原因ではないかと考えられます。昨年、「支部だより」欄を充実するために、地区編集委員の方々に編集委員会からお手紙を差し上げましたが、あまり反応がなかったというのが実際のところでした。

一方、「天気」の内容について、「難しい」、「現場で役立つ記事が少ない」、あるいは、「応用分野の記事が少ない」、などといった意見が寄せられています。今年1月に開催されました評議員会においても、評議員の

方々から同様の趣旨の発言が相次ぎました（「天気」1995年3月号、179～182、参照）。編集委員会においても「天気」を会員、特に地方の現場の会員の方々にとって身近なものにするためにいろいろと改善の方向を探っています。身近に感じられない原因として、地方の気象の現場で働いておられる会員の方々の原稿があまり掲載されないことが考えられます。編集委員会においても地方の会員の積極的な投稿を促すことの重要性が指摘されています。

地方の会員の方々の投稿が少ないことには色々な原因が考えられますが、「天気」の論文や短報の数が高いと思われていることがあります。これを解決するために、今年から「情報の広場」という欄を創設いたしました。この欄の目的は、「気象学の研究や調査などに有益な諸分野の情報や話題を掲載する」となっています。この欄を積極的に利用することも1つの方法かと考えられます。もちろんもっと新しい欄を設けることも1つの解決策かもしれませんが、これについても編集委員会で検討を行ってゆく予定です。

こちらに來まして支部の活動の記録を拝見しますと、支部の講演会を積極的に行われ、多くの会員の方々が発表されています。もちろん、研究会で発表することは重要ですが、それを論文（報告）の形にまとめることはもっと重要であると考えます。研究成果は論文として残すことによって初めて一般の方々の知るところとなり、その成果も活用されることになります。また、論文にまとめる過程でその内容も深化し、さらに査読者から適切なコメントを貰うことによって、その内容も一層よくなるばかりでなく、新しい視点で問題を見ることから、次の研究への足がかりともなります。

このような事情を考えると、支部講演会などで発表された内容をぜひ「天気」に投稿していただきたいと思います。と同時に、このような支部の活動を「支部だより」にもっと積極的に投稿する必要があるものと考えます。このことが支部活動のPRばかりではなく、「天気」の活性化につながるものと考えられます。これからは積極的に「天気」に投稿し、支部での活動を全国にアピールしようではありませんか。

(九州支部だより No. 75 より転載)